

この外来生物にも注意



【アライグマ】



【ブラックバス】



【アメリカザリガニ】



【ウシガエル】

「外来生物」とは

従来その地域におらず、人によって持ち込まれた動物や植物のこと。外来生物法で指定された生物を「特定外来生物」、法律の規制はないが、在来生物に悪影響を与える生物を「要注意外来生物」と呼びます。

オオキンケイギクの主な市内分布図

分布図は環境衛生課調べ



※クリーンアップ大作戦や地域ボランティア清掃などでの駆除の相談は、環境衛生課まで

オオキンケイギクの駆除の取り組み

地区の自然環境を守るため駆除に注力

口名田地区では、むらづくり推進委員会の活動計画のひとつにオオキンケイギクの駆除活動を取り入れています。地区内の踏査によりマップを作成し、地区民への注意喚起や駆除作業に取り組んでいます。多年草で繁殖力が強いので、再び芽を出さないように除草剤を用いて根絶させる取り組みも行なっています。



環境衛生課 森松 士朗 主事

環境衛生課では、オオキンケイギクの分布箇所を把握し、駆除を進めるために毎年パトロールを行なっています。平成29年度のパトロールでは、上図の地点で分布を確認して、駆除や注意喚起を行いました。

近年は、その生息域や市民の皆さんからの問い合わせなどは減ってきていますが、引き続き注意してください。また、6月3日⑩に『クリーンアップふくい大作戦』を市内全域で実施します。作業の際にオオキンケイギクが生えていましたら、駆除に協力いただきますようお願いいたします。

5月～11月の
2シーズンに
わたって

黄色い花に要注意！増殖する外来生物

日本には、過去から多くの外来生物が侵入しており、生態系、農林水産業などへ被害を及ぼすなど、社会問題になっています。小浜でも、繁殖力の強い外来種が増殖して、生態系を崩す危険が迫っています。本来の自然環境を私たちの手で守り育み、後世へと残していきましょう。

■問い合わせ 環境衛生課 ☎ 64・6016



繁殖力

土手や河原、道路、空き地などの開けた場所でよく見られます。現在、日本全国で分布が確認されています。強い繁殖力を持ち、地域に本来あった草花が取って代わられるなど、景色や生態系が一変する恐れがあります。

【オオキンケイギク】 特定外来生物

- ▶全体 高さ 30～70㍍。多年草
- ▶花 橙黄色。5～7月ごろに咲く。直径5～7㍍
- ▶葉 下のほうについている。両面に粗い毛がある



駆除方法

自宅や道に生えていたら、根から引き抜き、乾かした後、種が飛ばないようにして、燃やすゴミに出してください。花の咲く前に駆除を行うことで、種子の飛散による拡大を抑制することができます。

【セイタカアワダチソウ】 要注意外来生物

- ▶全体 高さ 10～50㍍。多年草
- ▶花 黄色。10～11月ごろに咲く。多数の黄色の頭花をつける
- ▶葉 密接についている。厚くて短毛があり、ざらついている



駆除方法

生えていたら、根から引き抜いてください。5～10月までの期間中に2回以上刈り取るようにしましょう。特に花が咲く10～11月に刈り取ることで、種子の飛散による拡大を抑制することができます。



繁殖力

種子と地下茎の両方で増え、在来の植物とは比べ物にならない旺盛な繁殖力を持っています。繁殖を始めた場所では在来種はほとんど見られなくなり、数年のうちにセイタカアワダチソウだけが繁茂すると言われています。